YAMAHA
Make Waves

会社案内 2025

ヤマハの歴史は1887年、創業者である山葉寅楠がリードオルガンの
修理をきっかけとして、オルガン製作に成功したことに始まります。
以来130年以上にわたって、楽器を中心とするさまざまな製品・サービスを
提供し続け、世界中で広く親しまれるブランドとなりました。

私たちは
音・音楽を原点に培った技術と感性で
新たな感動と豊かな文化を
世界の人々とともに創りつづけます。

ヤマハ(株)企業ミュージアム「イノベーションロード」

MESSAGE
FROM THE PRESIDENT

ヤマハ（株）本社オフィス棟

音・音楽の力で、
人々の個性輝く未来を創ります

ヤマハグループは「感動を・ともに・創る」を企業理念として共有し、音・音楽を通じて「世界中の人々のこころ豊かなくらし」に貢献することを目指しています。

この理念に基づき、中長期的に会社が目指す姿として、「音・音楽の力で、人々の個性輝く未来を創る」という経営ビジョンを新たに掲げました。社会価値の共創を通じて実現したい、私たちヤマハのありたい姿です。

2025年4月から3カ年の新中期経営計画「Rebuild & Evolve」では、「強固な事業基盤の再構築」「未来を創る挑戦」「経営基盤の強化」という3つの戦略方針を策定し、経営ビジョンの実現に向け、取り組んでいます。

「強固な事業基盤の再構築」では、既存事業の在り方を抜本的に見直し、事業環境に適応したあるべき姿につくり替えていくことを最重要課題としています。「未来を創る挑戦」では、新しい顧客体験の創出や事業ドメインの拡大に加え、成長市場への投資や新規事業創出に取り組んでいきます。そして、この２つの戦略方針を「経営基盤の強化」でしっかりと支えるべく、資本・資産効率の向上と人的資本強化、ガバナンス強化を進めてまいります。

当社は「サステナビリティを価値の源泉に」との方針のもと、今後も音・音楽の力、そして事業を通じて培った技術と感性で、社会課題の解決に貢献してまいります。特に重視したい視点は、「人」「社会」「地球」の3つです。音楽で人と人とのつながりをつくること、社会に音・音楽による安心・安全を提供すること、地球規模での資源循環を実現していくこと—このような取り組みを通じて、音・音楽の新たな可能性を追求してまいります。

音・音楽には、人々に大きな影響を与える力があります。そして、私たちヤマハは、そんな音・音楽の持つ力に引かれ、その力が人々のこころを豊かにすると強く信じています。これからのヤマハグループにご期待ください。

ヤマハ株式会社 代表執行役社長
山浦　敦

新中期経営計画［Rebuild & Evolve］

経営ビジョン **音・音楽の力で、人々の個性輝く未来を創る**

社会価値の共創を通じて企業価値を高める

音・音楽の力
ヤマハの強み、ヤマハらしさが十分に活きる「音・音楽」領域において新たな価値創造の可能性を追求する

人々の個性輝く未来
世界中の人々の自己表現、多様な個性の発揮を後押しする製品やサービスをたゆまず提供していく

社会価値の共創
多様なステークホルダーと積極的に連携・協業し、社会課題の解決に資する新たな価値を共に創り上げる

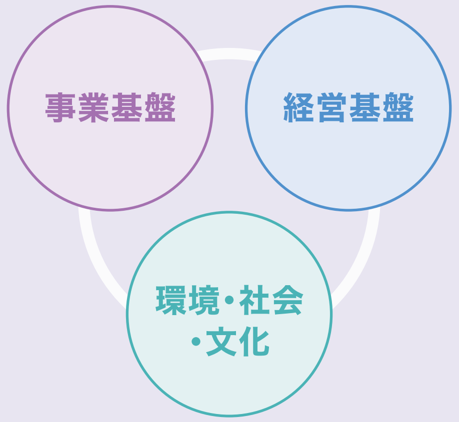
新中期経営計画 Rebuild & Evolve（2025年4月〜2028年3月）

音・音楽の力で、人々の個性輝く未来を創る

ヤマハグループは、2025年4月からの3年間を対象とした新たな中期経営計画「Rebuild & Evolve」を策定しました。
「強固な事業基盤の再構築」「未来を創る挑戦」「経営基盤の強化」の3つの戦略方針を掲げ、
経営ビジョン「音・音楽の力で、人々の個性輝く未来を創る」の実現に向け、取り組んでいます。

マテリアリティ（経営の重要課題）

顧客	・顧客との繋がり ・サービスを組み入れた新たな体験価値の提供
技術	・最先端技術と感性の融合による新価値創造 ・オープンイノベーションの創出
ものづくり	・クラフトマンシップとテクノロジー ・レジリエンスの強化
品質	・絶対的な顧客信頼を得る品質



人材	・創造的で挑戦的な組織風土の醸成 ・人権尊重とDE&I*
DX	・新たな価値の創造と様々な分野でのプロセス変革
ガバナンス	・グループガバナンスの進化

＊DE&I：Diversity, Equity, and Inclusion

環境	・気候変動への対応 ・持続可能な木材の利用 ・省資源、廃棄物・有害物質削減
社会	・平等な社会と快適なくらしへの貢献 ・バリューチェーンにおける人権尊重
文化	・音楽文化の普及・発展

重点課題と戦略骨子

重点課題

現在の主軸である既存事業の収益低下
収益力をコロナ前水準に回復することが最優先

中長期的な成長に向け、隣接・新規事業領域への
戦略的投資による育成・事業化が必要

新中期経営計画 **Rebuild & Evolve**

戦略骨子

戦略方針 ❶
強固な事業基盤の再構築
既存事業の収益改善と成長軌道への回復

戦略方針 ❷
未来を創る挑戦
積極的な投資により事業・市場ドメインを拡大

戦略方針 ❸
経営基盤の強化
持続的な成長へ向け資本効率向上・人的資本強化・ガバナンス進化

投資家向け情報：中期経営計画 ｜ https://www.yamaha.com/ja/ir/management/medium-term/

ヤマハの事業概要

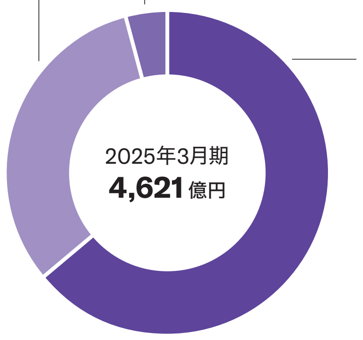
「楽器事業」「音響機器事業」「その他の事業」の3つの領域で、グローバルに事業を展開しています。

事業別売上収益 国際財務報告基準（IFRS）

音響機器事業
1,478 億円（32.0%）

- ホームオーディオ機器（サウンドバー／AVアンプ／HiFiコンポーネント／スピーカーシステム／ヘッドホン etc.）
- 音楽制作・配信機器（音楽制作用ソフトウェア／オーディオインターフェース／スタジオモニター／ミキサー etc.）
- 業務用音響機器（デジタルミキサー／スピーカー／シグナルプロセッサー／パワーアンプ／ユニファイドコミュニケーション etc.）
- ネットワーク機器（ルーター／スイッチ／無線LANアクセスポイント etc.）
- モビリティ音響機器（車載オーディオ／音声ソリューション／半導体 etc.）

※2026年3月期からの音響機器事業、その他の事業の区分変更を適用した数値に組み替えています



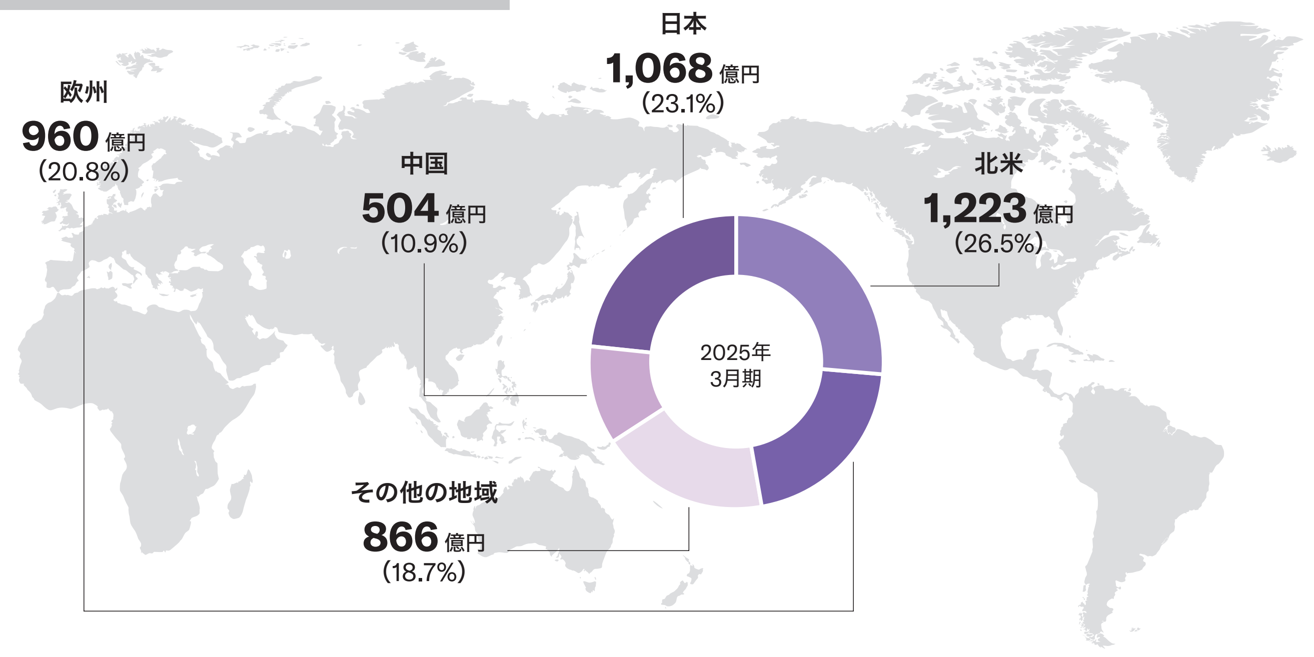
その他の事業
182 億円（3.9%）

- 自動車用内装部品
- FA機器
- ゴルフ用品
- リゾート

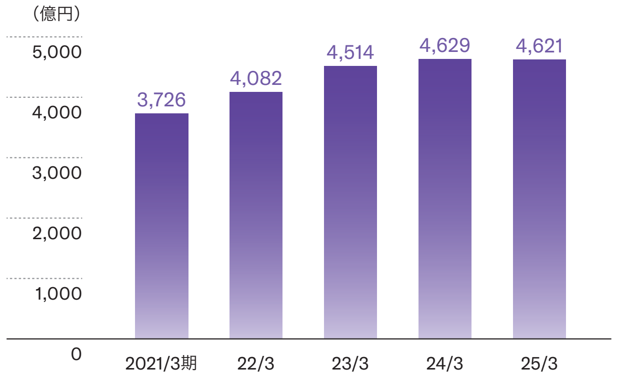
楽器事業
2,961 億円（64.1%）

- 鍵盤楽器（ピアノ／電子ピアノ／電子オルガン（エレクトーン®）／ポータブルキーボード／シンセサイザー etc.）
- 管楽器（トランペット／フルート／クラリネット／サクソフォン etc.）
- 弦楽器（ギター／ベース／バイオリン etc.）
- 打楽器（ドラム／ティンパニ／マリンバ etc.）
- 教育楽器（リコーダー／鍵盤ハーモニカ（ピアニカ®）etc.）
- 防音室
- 音楽教室・英語教室
- メディア・エンタテインメント（楽譜・書籍出版／音楽配信／音楽プロダクション／音楽出版／レーベル事業）

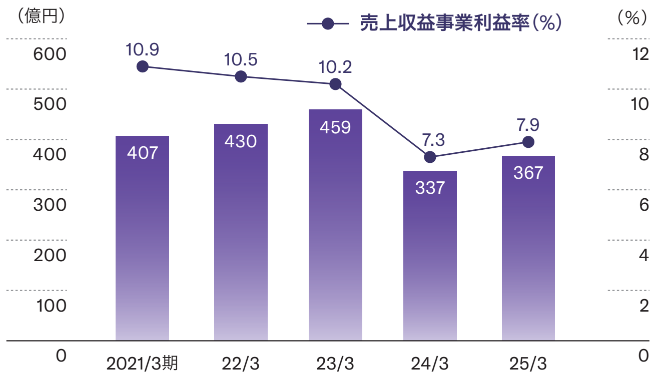
地域別売上収益



売上収益の推移



事業利益の推移



事業紹介

音・音楽を中心にした事業を通じて磨いてきた感性と多彩な技術を融合し、
楽器、音響機器、その他の事業領域で、
ヤマハならではの価値を生み出しています。

楽器事業

楽器の製造・販売、音楽教室等の運営、音楽・映像ソフトの制作・販売など多彩な事業を展開。初心者からプロフェッショナルまで幅広いユーザーに評価されるこれらの製品・サービスは、アーティストとの対話により進める研究開発やグローバルに展開するきめ細かな営業・サービス活動に支えられています。

鍵盤楽器

130年を超える歴史の中で培われた知見と熟練技能に裏付けられたアコースティックピアノから、先進のデジタル技術を駆使した電子楽器、そして、これらの技術の融合により生まれたハイブリッドピアノまで、豊富なラインアップを提供しています。

コンサートグランドピアノ
CFX®

ハイブリッドピアノ
AvantGrand® N3X

電子ピアノ
Clavinova® CLP-885PE

Bösendorfer（ベーゼンドルファー）
グランドピアノ
The Great Wave off Kanagawa

エレクトーン®
STAGEA® ELS-02C
（カスタムモデル）

電子キーボード
EZ-310

シンセサイザー
MONTAGE® M8x

アーティストに愛される最高の楽器・サービスを目指して

ヤマハは、東京、ニューヨーク、ロンドン、パリ、ハンブルクなど世界の主要都市にアーティストサービス・R&D（研究開発）の拠点を持ち、アーティストが最高の演奏ができるようきめ細かくサポートするほか、世界中の演奏家に愛用される最高の楽器づくりのために、さまざまな形でアーティストと協働しています。高い技術とノウハウを生かした楽器のメンテナンスや修理、調律などでアーティストの信頼に応えるとともに、演奏家の求める音を表現する楽器を提供するためにアーティストとの対話を大切にし、製品開発に役立てています。

写真提供：浜松国際ピアノコンクール

管楽器

50年以上にわたる管楽器製造で培った匠の技と、木材・金属を精密に加工する生産技術力を結集して、最高の音色、響きと吹奏感を生み出しています。

カスタムトランペット
Xeno® Artist Model
YTR-9335CHS

カジュアル管楽器
Venova® YVS-100

カスタムアルトサクソフォン
YAS-875EX

デジタルサックス
YDS-150

弦楽器

アコースティック、エレクトリックに加え、ヤマハ独自のサイレント™シリーズまでカバーする弦楽器は、多くの人に演奏する楽しみを提供しています。

アコースティック
バイオリン
Artida®
YVN500S

Line 6（ラインシックス）
マルチエフェクト・ペダル
Helix®

エレキギター
Pacifica® PACP12

アコースティックギター
FG9

エレクトリック
バイオリン
YEV105PRO

Córdoba（コルドバ）
エレクトリック・
ナイロン弦ギター
FUSION 12
White Sands

Ampeg（アンペグ）
ベースアンプ
Rocket Bass®

サイレントギター™
SLG200S

打楽器

世界中のトップアーティストとともに追求してきた音・打感、そして高い信頼を得てきた操作性・堅牢性により、プレーヤーのパフォーマンスを最大限に引き出します。

アコースティックドラム
Live Custom®
Hybrid Oak

コンサートマリンバ
YM-6100

電子ドラム
DTX6K5-MUPS

教育楽器

リコーダーやピアニカなどの教育楽器の提供を通じて、子どもたちに音楽の楽しさ、演奏する喜びを伝えています。

ピアニカ®
P-32E

ソプラノリコーダー
YRS-401
（バイオマス素材使用）

防音室

楽器演奏はもちろん、動画配信用のプライベートスタジオや在宅勤務などにも幅広く使える防音室。用途を問わず最適な音環境をつくり出します。

アビテックス®
CEFINE® NS

音楽教室（YAMAHA MUSIC SCHOOL）・英語教室

40以上の国と地域で幼児から大人までを対象にYAMAHA MUSIC SCHOOLを展開し、音楽文化の普及に貢献。英語教室は、歌やリズムで楽しく生きた英語が身につくヤマハならではのレッスンが人気です。

YAMAHA MUSIC SCHOOL

ヤマハ英語教室

メディア・エンタテインメント

楽譜・書籍・雑誌の出版、音楽および楽譜の配信、アーティストマネジメント、音楽出版、レコードレーベル等、エンタテインメント関連の事業を幅広く展開しています。

映像作品
中島みゆき コンサート「歌会 VOL.1」

絵本

音楽生活を豊かにするサービスを提供 —Yamaha Music Connect（ヤマハミュージックコネクト）

Yamaha Music Connectでは「人と音楽は、もっと近くなる。｜BE ONE WITH MUSIC」をコンセプトに、テクノロジーのチカラで人と音楽の可能性を広げ、かけがえのない音楽体験を提供しています。遠く離れた人と音楽セッションができるリモート合奏サービス「SYNCROOM®」やセッションの臨場感を手軽に味わえる「Extrack®」など数多くのアプリケーション・サービスを手掛けています。今後もパートナー企業との協業を進め、新たな価値・サービスを創出していきます。

「Extrack」は、音源分離機能やコード解析機能などヤマハが得意とする最先端技術を活用し、楽器演奏者が直面する練習課題を解決。初心者からプロまで、あらゆる演奏者が「もっと演奏を楽しめる」という体験を実現します。

Yamaha Music Connect ｜ https://www.yamaha.com/ja/about/business/music-connect/

誰もが音楽や楽器を楽しめる、2つの体験型ブランド発信拠点がオープン

幅広いお客様に音楽・楽器のさまざまな楽しみ方との出会いや発見を提供するブランドショップ「ヤマハミュージック 横浜みなとみらい」が2024年6月にオープン。音と映像に没入体験できるエクスペリエンスゾーン「Music Canvas」、音楽イベントを楽しめる「ライブ&カフェ」、気軽に楽器に触れ演奏することができる「楽器体感コーナー」など、開放的な空間で多彩なコンテンツをお楽しみいただけます。また、同年11月にオープンした「Yamaha Sound Crossing Shibuya」では、創造性を刺激する最新楽器や機材、技術が体験できるほか、ワークショップや企画イベントなどを開催しています。

Music Canvas

Yamaha Sound Crossing Shibuya

ヤマハミュージック 横浜みなとみらい ｜ https://retailing.jp.yamaha.com/shop/yokohama-minatomirai/
Yamaha Sound Crossing Shibuya ｜ https://www.yamaha.com/ja/about/experience/yamaha-sound-crossing-shibuya/

音響機器事業

「音・音楽」をコアとして培ったデジタルとアコースティックの技術を生かし、コンシューマー向けから業務用まで多彩なソリューションを提供しています。ホームオーディオ機器、音楽制作・配信機器、業務用音響機器、ネットワーク機器、モビリティ音響機器など幅広い製品で構成されています。

ホームオーディオ機器

ヘッドホンから、サウンドバー、そして本格的なホームシアターやHiFiオーディオまで、多彩な音楽の楽しみ方を提案しています。音楽の感動を知り尽くしたヤマハが、目の前でアーティストが演奏しているかのような本物の音体験—True Sound® —を届けます。

フラッグシップ
ヘッドホン
YH-5000SE

AVレシーバー
RX-A8A

フラッグシップHiFiスピーカー
NS-5000

ヘッドホンアンプ
HA-L7A

サウンドバー
SR-X90A

HiFiコンポーネント
ネットワークレシーバー
R-N2000A

音楽制作・配信機器

ソフトウェア技術とシームレスに融合した音楽制作機器は、音楽をつくる楽しみを身近にし、より表現力豊かな音楽制作を可能にします。また、直感的な操作と独自の音声処理を備えた配信機器は、配信者と視聴者双方に没入感の高い音楽・ゲーム体験を提供します。

ライブストリーミングミキサー
AG08

ゲームストリーミングミキサー
ZGシリーズ

歌声合成技術・ソフトウェア
VOCALOID™ 6

Steinberg（スタインバーグ）
デジタル・オーディオ・
ワークステーション・ソフトウェア
Cubase®

ポータブルPAシステム
STAGEPAS® 100

パワードスタジオモニター　HS4/HS3

業務用音響機器

オーディオネットワーク技術を生かしたヤマハの業務用音響機器。世界の著名なホール、劇場、コンサート会場などに導入されているだけでなく、店舗、会議場などの商業空間に向けた音のトータルソリューションも提案しています。

デジタルミキシングコンソール
DM3シリーズ / DM7シリーズ

NEXO（ネキソ）
スピーカーシステム
Alpha+シリーズ

遠隔会議用ワンストップ
サウンドソリューション
ADECIA®

ユニファイドコミュニケーション
スピーカーフォン
YVC-330

ペンダントスピーカー
VXHシリーズ

ネットワーク機器

業種を問わず、中小規模の企業拠点や店舗などに広く採用されており、ルーターやスイッチ、無線LANアクセスポイント、セキュリティ機器などで安定したネットワークを提供しています。

ギガアクセスVPNルーター
RTX840

Wi-Fi 6E対応
無線LANアクセスポイント
WLX323

モビリティ音響機器

音響機器の開発で培った技術力をベースに、“音楽が生まれた瞬間の感動を届けたい”という想いのもと、自動車ごとのコンセプトにふさわしい音響空間を創り出す車載オーディオ製品を提案しています。

緊急通報装置向け
音声通話モジュール

三菱自動車工業（株）
アウトランダーに
搭載されたスピーカー

車載オーディオ用
スピーカー・アンプ

世界中の会場でコンサートやイベントを支える業務用音響機器

ヤマハの業務用音響機器は、音質の良さやレスポンスの良い操作性、プロフェッショナルな現場で求められる信頼性、最先端のオーディオネットワーク技術などを評価され、小規模なイベントから大型のコンサートホールまで幅広い会場で採用されています。ヤマハのデジタルミキサーやプロセッサーとともに、NEXOのスピーカーシステムやSteinbergのソフトウェアが導入される例も多く、ヤマハグループの総合力を生かしたソリューションを提供しています。また、会議室や店舗などの商業空間向け音響の分野においてもトータルソリューションを提案しています。

米国カリフォルニア州のイーストサイド・クリスチャン教会に設置された音響機器

主な納入事例

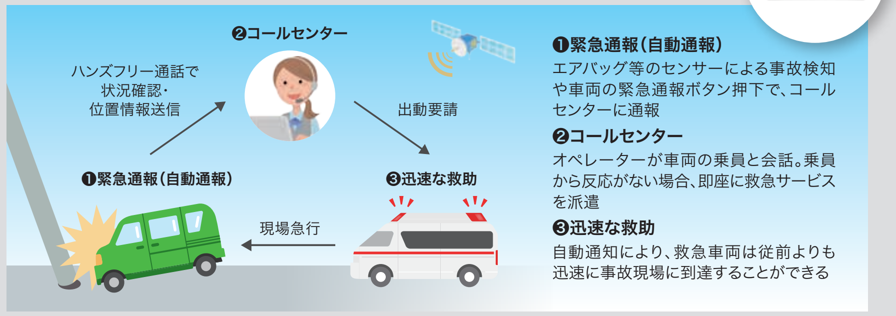
新国立劇場（東京都）
東京国際フォーラム（東京都）
JR東日本四季劇場（東京都）
大和ハウス プレミストドーム（北海道）
兵庫県立芸術文化センター（兵庫県）
ロンドン交響楽団（英国）
フー・ファイターズ ワールドツアー

商業空間向け音響

アルタ・ルミナ・ナイトウォーク（フランス）
カタール大学スポーツイベント複合施設（カタール）

車載緊急通報装置向け音声ソリューションで自動車の安心・安全に貢献

事故自動通報システム（ACN：Automatic Collision Notification）は、事故時にエアバッグと連動して自動的に救助・救急機関へ通報するシステムです。ロシア・欧州ではすでに自動車への搭載が義務化され、日本を含めた各地域でも義務化の検討が進んでいます。ヤマハの車載音声ソリューションは、このシステムの通話品質向上のために使用され、クリアな音声での通話をサポートしています。



緊急通報システムの概念図

その他の事業

自動車用内装部品、FA（Factory Automation）機器、ゴルフ用品およびリゾートでも、楽器の製造・販売を通じて蓄積した技術・ノウハウを生かして、お客様に満足いただける製品とサービスを提供しています。

自動車用内装部品

木材加工や塗装の技術、デザイン力などを生かし、上質で快適な空間を演出する自動車内装用意匠パネル製品を提供しています。

ヤマハ意匠パネルが搭載された車室空間

自動車内装用
意匠パネル

FA機器

ヤマハの生産技術とシステムエンジニアリングで差別化を図り、信頼性の高い機器を製造しています。

電子回路基板用
導通絶縁検査装置

車載Li電池漏れ検査用
ヘリウムリークテスター

超音波式ヒートシール
検査機

ゴルフ用品

ヤマハが持つ技術力と契約プロゴルファーからのフィードバックを生かし、機能と感性を両立させた魅力あるゴルフクラブを開発しています。

ゴルフクラブ
INPRES DRIVESTAR®
（左から）TYPE/Dアイアン
TYPE/Dドライバー
RMX® DD
（右から）DD-1ドライバー
DD-1アイアン

リゾート

豊かな自然の中で非日常の空間と高品質なサービスを提供し、ヤマハにしかできない豊かな時間をつくり出しています。

葛城北の丸®

葛城ゴルフ倶楽部®

デザイン Design

日本ではデザイン機能を持つ企業が少なかった1963年、ヤマハはデザイン部門を設立しました。以来、国内外のデザイナーやトップアーティストとの協働などを通じて経験と実力を蓄積し、創業100周年を迎えた1987年に、ヤマハデザイン共通のアイデンティティとして「デザイン理念」を制定しました。こうした基本的考え方をもとにお客様とのあらゆる接点をデザインし、お客様の期待を超える製品･サービスの実現を推進しています。

5つのデザイン理念

INTEGRITY 本質を押さえたデザイン
INNOVATIVE 革新的なデザイン
AESTHETIC 美しいデザイン
UNOBTRUSIVE でしゃばらないデザイン
SOCIAL RESPONSIBILITY 社会的責任を果たすデザイン

本質を押さえつつ革新するデザインで、新たな価値を創造

フィンガードラムパッド
FGDP-50
FGDP-30

指で演奏するドラム。軽量コンパクトなボディ、見た目の楽しさや軽快さで、奏者が既存の思考にとらわれず自由な表現にチャレンジできるデザイン

reddot winner 2025　GOOD DESIGN AWARD 2024

ヘッドホンアンプ
HA-L7A

所有する歓び、使う歓びを高めるビルドクオリティで新しいリスニング体験をすることができるヘッドホンアンプ。独創的かつスタイリッシュな外観で音体験を特別な空間に演出するデザイン

reddot winner 2025　iF DESIGN AWARD 2025

プロトタイプ
Designed by Nature Clarinets シリーズ

天然木材の多様性、個性を生かしたプロトタイプのクラリネット。自然由来の特徴を木材の多様な個性として引き立たせ、伝統的な日本の修理技術である金継ぎを用いて、個性を美しく強調

reddot winner 2025

インスタレーション
エプレゴナ
e-plegona®

プレーヤー双方の身体と非言語による直感的な意思伝達を用いることで「感動」を生み出す体験型のインスタレーション。ヤマハ発動機（株）との共同制作

reddot winner 2024

限りある木材を有効活用した、黒い鍵盤の電子ピアノ

クラリネットなどの木管楽器に使用される希少木材グラナディラ（アフリカン・ブラックウッド）の未利用材*を鍵盤に活用した、電子ピアノの新しいコンセプトモデル、TORCH®「T01」。日本国内の職人が1台1台丁寧に仕上げ、細部に至るまでグラナディラの木を感じられるデザインにこだわりました。時を重ねるごとにその風合いが深まり、愛着が増していくピアノになっています。木材の新しい可能性を探りながら、素材にまっすぐ向き合い、ありのままの魅力をカタチにしたデザインには、持続可能なものづくりへの挑戦が詰まっています。

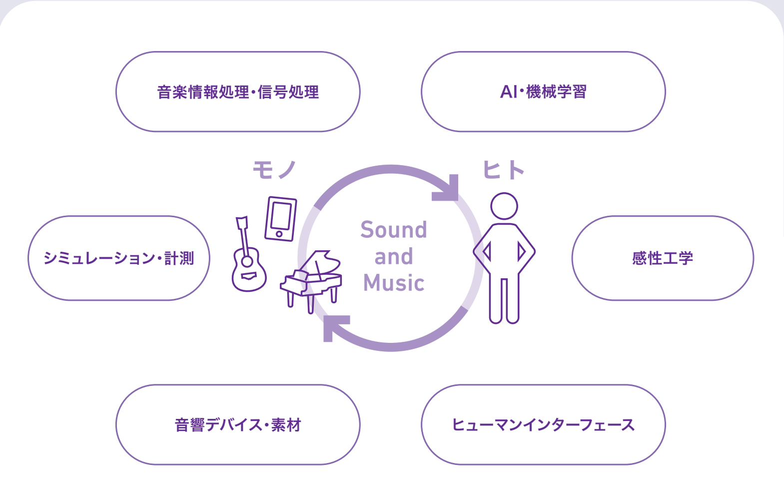
* 未利用材：楽器づくりにおいて木材を厳選し加工する過程で発生する不使用材のこと

TORCH「T01」

Yamaha Design | https://www.yamaha.com/ja/tech-design/design/

研究開発 *Research & Development*

世代を超えて受け継がれた熟練技能や音づくりへの感性。音をめぐる感性に関する深い理解と知見を活用し、アコースティック技術やデジタル・エレクトロニクス技術などのさまざまな技術を組み合わせることで、他社にはないユニークな製品・サービスを提供しています。



ヤマハの技術

楽器領域

ヤマハは、より豊かな音を届けるために、木材・金属などの素材の加工をはじめ、鍵盤・アクションのメカニズム、音源や音響に関連する技術の研究を重ねています。

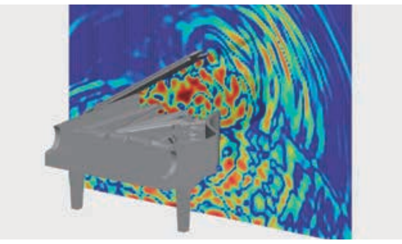
木材改質技術
A.R.E.®（Acoustic Resonance Enhancement）

A.R.E.は短期間で木材を熟成させるヤマハ独自の木材改質技術。温度・湿度・気圧を高精度でコントロールする装置で、使い込まれた楽器のような深みのある音が出る木材へと変化させます。

A.R.E. 処理を施した木材で作られたバイオリン Artida®（アルティーダ）YVN500S

アコースティック楽器における
振動・音響解析の研究

楽器本体の各部分がどのように振動し、その影響で楽器内部や周辺の空気がどのように振動し音が伝わるかなどの解析を、測定技術やシミュレーション技術を駆使しながら進めています。



ピアノの音を高精度な物理モデルに基づいたコンピュータ・シミュレーションで予測

音・音楽に対する人の感性を可視化
感性計測技術

人の感性をシステムとしてモデル化する技術。物理・心理・生理計測によりデータ化し、統計分析やAI技術によって可視化することで、人に寄り添った商品企画や設計を可能にします。

人の「感じ方」「嗜好」「価値観」などを可視化

音響機器領域

ホームオーディオ機器や業務用音響機器、ネットワーク機器などでは、デジタル信号処理やネットワークの技術を核とした最先端のエレクトロニクス技術を駆使し、付加価値の高い製品を提供しています。

イマーシブオーディオシステム
Sound Image Control（AFC Image®）

あらゆる空間でイマーシブな音環境を創り出すオブジェクトベース方式の音像制御システム。最大128オブジェクトの音を自在にコントロールし、劇場やホールなどで臨場感あふれる体験を提供します。

マルチスピーカーによるAFC Image再生システム

ミキシングを自律的に支援
DM7シリーズAssist機能

HA・Naming・Faderの各Assist機能が、適正レベルやアイコン／チャンネル名、フェーダーバランスの設定をアシスト。統計と数理で機械が人を手伝う機能を実現しました。

「機械による人の支援」にフォーカスした Assist機能搭載のデジタルミキサーDM7シリーズ

全帯域で統一された音色を実現
HARMONIOUS DIAPHRAGM®（ハーモニアスダイアフラム）

音速や内部損失に優れたZYLONやグランドピアノの響板にも使われているスプルース材などを混抄（こんしょう）して開発したHiFiスピーカー振動板。全帯域にわたって自然かつ正確な表現を実現します。

全ユニットにHARMONIOUS DIAPHRAGMを採用したフロアスタンディングスピーカー NS-2000A

価値創造の取り組み

ヤマハは、世界最大の総合楽器メーカーとして幅広い領域の製品を手掛ける中で、世界中の人々が音・音楽を心から楽しめるよう、最高の技術を追求してきました。そこから生み出された技術を有機的に結合しながら、新たな価値を創造し、お客様に驚きと感動をお届けすることを目指しています。

声でバスドラムを操るシステム「VXD」

ヤマハと慶應義塾大学との共同研究プロジェクト「声でバスドラムを操るVXD」。独自技術の「Real Sound Viewing®」を応用し、マイクとセンサーが演奏者の「ドン」の発声を検知すると、それがトリガーとなり、バスドラムの中の加振器が振動して音が出ます。この開発は、ミュージシャンズ・ジストニアを発症したロックバンド「RADWIMPS」のドラマーである山口智史さんの提案によりスタート。楽器づくりにおいて従来から培ってきた信号処理技術やノウハウなどを活用することで、極めて速いレスポンスや、山口さんが高い演奏感を得られるようなシステムをつくり上げています。この取り組みは、本質的な価値理解や広範囲の社会課題解決につながることが期待され、ドラムの再現だけではなく、演奏する楽しさそのものを追求しています。

RADWIMPSドラマー山口智史さん

車載音響技術

独自の信号処理技術により、車室内の全シートで没入感あふれる音空間を提供する、立体音響コンテンツ再現技術を開発しました。音の反射や共鳴が顕著な車室内でも、制作者の狙いを精度高く再現し、圧倒的な没入感を味わうことができます。また、AIを活用し、最適な音響処理によりコンテンツをストレスフリーで楽しめるほか、好みの音響空間を簡単な操作でつくり上げることができる「Music:AI®」を開発。車室内の音楽体験を向上させる取り組みを続けています。

全シートで立体音響の没入感を楽しむことができるオーディオシステム

ライブを“真空パック”し、無形の音楽・文化資産として遺す技術

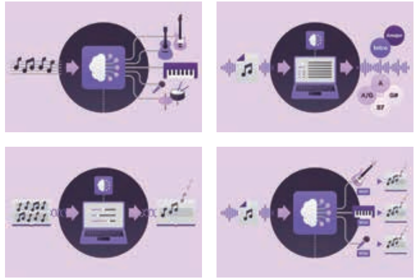
「ライブの真空パック」をコンセプトに、収録した演奏データをアコースティック楽器で再現する「Real Sound Viewing」と高臨場感ライブビューイングシステム「Distance Viewing」を開発。それらを支える技術として、音響、映像、照明や舞台演出などのデータ形式を統一化する記録・再生システム「GPAP®（General Purpose Audio Protocol）」などを開発し、実証を重ねてきました。これによりライブ体験を保存し、時間と空間を超えてリアルに提供することを可能にするほか、現代の音楽だけでなく、伝承が危ぶまれる伝統音楽の保存や継承にも貢献することが期待できます。

「ライブの真空パック」をコンセプトとした演奏を保存・再現する技術「Real Sound Viewing」

「Yamaha Music Connect API」を事業者向けに提供

長年の研究開発活動で培ってきた技術の一部をAPI（Application Programming Interface）の形にした「Yamaha Music Connect API」を提供しています。楽器や音響機器などの製品・ソフト開発で蓄積した多様な技術を広く公開し、それらを音・音楽およびその周辺領域で創作活動をする方たちに活用いただくことで、ヤマハの既存事業を超えて新たな顧客体験を提供していきます。ヤマハはさまざまなパートナーとの協業を進め、新たなソリューションを提供することで、日常生活やビジネスにおける音楽に関する課題の解決を目指しています。

Yamaha Music Connect API ｜ https://www.yamaha.com/ja/about/business/music-connect/apis/



自社保有の研究開発技術をAPIの形にした「Yamaha Music Connect API」

3つの研究開発拠点

さまざまな専門分野の技術者が集結し、革新的な技術を創出している本社「イノベーションセンター」、音楽演奏や創作の新しい可能性を外部研究者と連携して追究する横浜「ミナラボ™（MINA Lab: Music Informatics and New Applications Laboratory）」、アーティストやクリエイターとともに未来の音・音楽を模索する渋谷「Yamaha Sound Crossing Shibuya」。3つの拠点にわたる専門性・共創力を融合させながら、先進的な価値を生み出しています。

（上段） 本社拠点 イノベーションセンター
（下段左） 横浜拠点 ミナラボ
（下段右） 渋谷拠点 Yamaha Sound Crossing Shibuya

サステナビリティ *Sustainability*

ヤマハグループは、世界中の人々のこころ豊かなくらしの実現を目指し、音楽文化の普及・発展への貢献や、地球規模の環境問題や社会課題への対応を通じて、持続可能な社会構築のための活動 ―サステナビリティ活動― に取り組んでいます。

ヤマハグループサステナビリティ方針

ヤマハグループは、長い歴史の中で、自然、社会、文化との繋がりを意識しながら、人々の「こころ豊かなくらし」を願い、さまざまな取り組みを行ってきました。木材をはじめとする自然素材を多く用い、匠の技により丁寧に仕上げられた製品は、世代を超えて引き継がれ、さらには、リニューアルされることで新たな命を与えられ、多くの人々に親しまれてきました。
また、単に製品を販売するだけでなく、世界中の様々な国と地域で、自らの事業として、音楽文化の普及・発展に貢献をしてきました。それは、子供たちの器楽教育普及、音楽教室展開からトップアーティストのサポートに至るまで、実に幅広い活動です。こうした想いや取り組みは社会のサステナビリティに通じるものであり、130年を超える歴史の中で綿々と引き継がれ「ヤマハらしさ」を形造ってきました。

ヤマハグループサステナビリティ方針

ヤマハグループは、世界中の全ての人々が心豊かに暮らす社会を目指します。その実現のために、企業理念である「ヤマハフィロソフィー」を心のよりどころに、かけがえのない地球環境を守り、平等な社会と快適なくらし、心潤す音楽文化の発展に貢献するとともに、人権尊重はもとより、多様な人材が互いに認め合い活躍できる環境を整えることで、未来に向かって新たな感動と豊かな文化を世界の人々とともに創りつづけます。この考え方に基づき、持続可能な社会の実現に向けた取り組みによる社会価値の創造を通じ、自らの中長期的な企業価値を高める為、マテリアリティを特定し、積極的にサステナビリティ活動を推進します。

環境に配慮した事業活動の展開

「ヤマハグループ環境方針」に基づき、事業活動における環境負荷の低減、環境に配慮した製品・サービスの提供、環境貢献活動を進めています。ISO14001認証取得など環境マネジメント体制を整備し、温室効果ガス排出削減や環境汚染防止、木材資源の保全、持続可能な資源の利用などにグループ一体となって取り組んでいます。

温室効果ガス排出削減の取り組み

ヤマハグループは「気候変動への対応」をマテリアリティとして特定し、経営重点テーマとして位置付けています。現在、SBT（Science Based Targets）イニシアチブが認定した1.5℃目標に基づき温室効果ガス排出量の削減に取り組んでおり、バリューチェーン全体を含むカーボンニュートラルの達成に向け、2050年までの移行計画を策定しています。2021年にはヤマハ（株）本社事業所の購入電力を100％再生可能エネルギー電力に切り替えたほか、2024年11月には掛川工場の屋根および駐車場に1.4MWの大規模な太陽光発電設備を導入し、稼働を開始しました。

Climate CDP A List 2024

国際的な環境非営利団体CDPによる「CDP2024気候変動Aリスト企業」に選定

持続可能な木材資源利用に向けた取り組み

楽器製造を中心に多種多様な木材を使用するヤマハグループは、木材資源の持続的な活用に向けた取り組みを進めています。「おとの森® プロジェクト」では地域社会と協働し、持続可能な森をつくるための調査研究、社会実装を行っています。タンザニアでは2015年から木管楽器に使われる希少木材「アフリカン・ブラックウッド」の調査研究を開始し、国際協力機構（JICA）との連携（2016~2019年）や林野庁補助事業採択（2015年、2021年）などを経て、現地NGOと連携した住民参加型森林保全による安定調達に向けたビジネスモデルの構築と社会実装に取り組んでいます。現地のコミュニティーにて2017年より定期的な植林活動を開始し、2025年3月には累計約27,000本（面積約13.5ha）の苗木植栽を達成、「ウッドデザイン賞2024」（主催：一般社団法人日本ウッドデザイン協会）を受賞しました。またインドや北海道においても希少材の育成および利活用の活動展開を進めるとともに、未利用材を活用したカスタネットづくりを題材とした木育ワークショップを展開しています。

2025年3月期に導入したタンザニアコミュニティーの苗畑

希少木材への取り組みと並行して、調達する全ての木材に対する包括的なリスク評価（木材デューディリジェンス）も実施。違法伐採や乱伐による木材の調達を防ぐために、毎年調査しています。さらに、専門機関と連携して「持続可能性に配慮した木材」の自社基準を制定し、2025年3月期現在で基準適合率69.5％を実現するとともに、さらなる向上を目指しています。

インドネシアのサプライヤーを訪問し
木材デューディリジェンスを実施

社会課題を見据えた製品・サービスの開発

当社の持つ多彩な技術を生かし、さまざまな社会の課題を解決し、新たな価値を生み出す製品・サービスの開発を進めています。

音のユニバーサルデザイン化を実現するSoundUD®

SoundUDは音のある空間と特定の情報・サービス、その空間にいる利用者をつなげることでスムーズな情報伝達を実現する音のプラットフォームです。この技術を活用したサービス「おもてなしガイド®」は、聴覚に不安のある方や外国人が安心して暮らせるよう音のユニバーサルデザイン化をサポート。多言語に対応し文字表示できる「みえるアナウンス」や「スマホでインターホン®」などが駅や空港、商業施設、スタジアムをはじめ多様な施設で採用されています。多言語アナウンスおよび「みえるアナウンス」は、2025年日本国際博覧会における場内のアナウンスシステムに採用され、東京メトロでは2025年11月開催の「東京2025デフリンピック」に向けて全駅に順次導入、JR東日本の一部の駅でも試行導入されています。

2025年日本国際博覧会で採用された
「みえるアナウンス」

自動伴奏機能付きピアノ「だれでもピアノ®」

ピアノを弾くことを夢見る手足の不自由な高校生の願いをきっかけに、東京藝術大学COI拠点とヤマハが共同開発した「だれでもピアノ」。メロディーを弾くと、AIがそのタイミングや速度に合わせて伴奏とペダルが追従するので、演奏経験やレベル、年齢に関係なく、自分のペースで演奏を楽しめます。2025年3月にはその最新機能を体験できるアプリ（β版）を公開し、自宅の電子ピアノやキーボード*でも自動伴奏機能を楽しめるようになりました。今後も、誰もがピアノ演奏を手軽に楽しめる体験を提供していきます。

*MIDI端子かBluetoothを備えた電子ピアノ/キーボード

AIによる伴奏アシストで誰でも華麗な演奏を体験できる
「だれでもピアノ」

音楽文化の発展と豊かな社会づくりへの貢献

ヤマハグループは、音・音楽で培った技術と感性を生かし、より多くの人々が音楽を楽しむことのできる機会づくりや活動支援、音楽、スポーツなどを通じたコミュニティー活性化への取り組みなど、さまざまな活動を実施しています。

新しい音楽の授業で未来を生きる力を育む「スクールプロジェクト」

まだ音楽教育が行われるための環境が十分ではない国に向けて、「新しい音楽の授業」の構築支援に取り組む「スクールプロジェクト」を展開しています。カリキュラムの構築支援や指導者の育成、教材や楽器の販売・提供を通して、公教育における音楽授業の普及を産官学連携で推進しています。多くの子どもたちが音楽や楽器演奏を学ぶ中で、未来を生きる力を手に入れ、こころ豊かな人生を送ることができる世界を目指して活動し、その実績は2025年3月末時点でマレーシア、インドネシア、ベトナム、フィリピン、インド、ブラジル、コロンビア、メキシコ、UAE、エジプトの10カ国、累計425万人に上っています。

コロンビアでの授業の様子

青少年育成のためのオーケストラ・バンド活動支援

犯罪や貧困、格差が深刻な社会問題となっている中南米では、子どもたちが犯罪・非行・暴力に走ることなく健全な精神を育めるよう、国の政策で無償の音楽教育活動が進められ、青少年育成を目的としたオーケストラやバンドが結成されています。ヤマハは「AMIGO Project」を通じて支援活動を行い、子どもたちに楽器のメンテナンス方法を伝授できるよう指導者向けワークショップを開催するほか、楽器の修理に対応できる技術者の育成を推進するなど、より良い環境で子どもたちが演奏を楽しめるようサポートしています。現在、メキシコ、エルサルバドル、ホンジュラス、チリ、コスタリカ、パナマ、ドミニカ共和国、コロンビア、ペルー、ブラジルの10カ国で展開しています。

ヤマハ・ミュージック・ラテンアメリカが支援する吹奏楽団

沖縄三線文化を「モノ」と「ヒト」からひも解く試み

沖縄県三線製作事業協同組合が中心となり、琉球大学、沖縄県立芸術大学、沖縄県立博物館・美術館、東京文化財研究所（アドバイザー）が携わる共同研究「沖縄三線文化継承プロジェクト」に参画。後継者不足や材料の枯渇など三線にまつわるさまざまな社会課題の解決へ向け、ヤマハは長年蓄積してきた楽器・感性研究のアセットを活用して、木材の物性調査や三線のふるまい可視化、音色の表現語調査などに取り組んできました。これらの研究は、三線の材料確保や製作技能の継承、三線の価値や特徴を伝えるツールの制作といった社会実装に役立てられ、三線をとりまく文化の継承と発展に貢献しています。

THIS IS MECENAT 2025

公益社団法人企業メセナ協議会が定めるメセナ活動「This is MECENAT 2025」に認定

ヤマハ吹奏楽団による活動

1961年に創部し60年を超える歴史を持つヤマハ吹奏楽団は、ヤマハグループの従業員によって構成され、メンバーの多くが楽器製作に携わっていることから「匠のバンド」とも称されています。浜松での定期公演やヤマハ野球部の応援演奏、国内外のコンサートやコンクール出場などに加え、演奏活動を通じた地域への貢献を図っています。2024年には、「第72回全日本吹奏楽コンクール」で通算36回目の金賞を受賞したほか、これまでにCDアルバム「ヤマハのオト～奏でる匠のオト～（Ⅰ～Ⅲ）」を発売し、売上金の一部は日本赤十字社を通じて寄付をしています。

毎年春に浜松で開催する「ヤマハ吹奏楽団定期演奏会」

ヤマハ野球部による野球教室

1958年に創部したヤマハ野球部は、静岡県を代表する企業チームとして、浜松市をはじめ地域社会からも大きな期待が寄せられています。また、静岡県内での野球教室の開催など、地域におけるスポーツ振興の取り組みに積極的に協力しています。野球教室では少年野球チームへの技術指導のほか、幼稚園での「ティーボール教室」などを行い、現役選手が子どもたちと交流を深めながら野球の楽しさを伝えることで、次世代の健全育成に貢献しています。

子どもたちを
指導する
ヤマハ野球部員

多様性の尊重と働きがいのある職場環境づくり

ヤマハグループでは、企業としてのさらなる成長・発展を目指し、ともに働く人々が感性・創造性を十分に発揮できる環境整備に努めています。

人材育成の取り組み

ヤマハグループで働く従業員一人ひとりが存分に能力を発揮し、自己実現を図りながらプロフェッショナルへと成長することを後押しすることで、ヤマハで働く価値の創出に努めています。教育・研修制度については、人事部や各部門が主体となり、階層別教育や機能別専門教育研修を整備・運用するとともに、担当者間でのベストプラクティス共有や協力体制構築を通じ、人材教育の質向上を図っています。

また、こうした人材教育施策に加え、従業員の働きがいを高めることも、企業としてのさらなる成長に欠かせない要素です。そのためには、一人ひとりが経営ビジョンを共有し、事業戦略の実現に向けて自身が貢献している実感を持つことが重要となります。2025年3月期にはタレントマネジメントシステムの活用を一層進めるとともに、グループ中核人材育成施策や管理職の人事制度改定を実施しました。こうした人事インフラ基盤の整備を通じ、一人ひとりの成長を事業の成長へと結びつけ、働きがい向上と企業成長を加速させます。

若手従業員を対象としたキャリアデザイン研修

中国生産拠点4社から選抜された工場監督候補者向け研修

風通しが良く、皆が挑戦する組織風土の醸成

従業員が仕事・プライベート両面の充実と心身の健康増進を図りながら、いかんなく能力を発揮し挑戦できる組織を目指し、風土醸成や制度・職場環境づくりに取り組んでいます。風土醸成の面では、2021年3月期より実施している「働きがいと働きやすさに関する意識調査」の結果分析を通じ、従業員および組織の活力最大化の土台となる「風通しが良い組織風土」の醸成に努めています。職場ごとの活動の効果を一層高め、自律的に組織開発活動を推進できるよう、人事部門で後押ししています。また、社長が定期的に各職場を訪問し従業員と対話する時間を設けるなど、組織・立場を超えた多様なコミュニケーションの機会も創出しています。

職場環境の整備では、「安全と健康は全てに優先する」という基本方針のもと、事業活動に関わる全ての人々の安全確保と、従業員およびその家族の健康保持・増進のための諸施策に取り組んでいます。定期健康診断や喫煙対策などの取り組みが評価され、経済産業省・日本健康会議が主催する「健康経営優良法人認定制度」では、ヤマハ（株）が4年連続・通算8回目となる「健康経営優良法人（大規模法人：ホワイト500）」に認定されています。

プラチナくるみん 子育てサポートしています

次世代育成支援対策推進法に基づく
認定マーク「プラチナくるみん」

2025 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health 大規模法人部門 ホワイト500

ヤマハ（株）が認定された
「健康経営優良法人（大規模法人：ホワイト500）」

人権尊重とDE&Iの推進

ヤマハは「人権尊重」を企業活動の基盤と捉え、多様性を尊重し多様な人材を包摂する環境整備に努めています。人材育成においては、女性リーダーの継続的育成・創出により経営層・管理職層の多様性を高めるために、「女性活躍推進部会」で定期的に経営層と議論し、さまざまな施策を主導しています。その結果、管理職の女性比率は2025年3月期、グローバルで中期経営計画目標の19%を達成しました。

また、グローバルな事業展開に対応し、国籍にとらわれない人材の計画的な育成・配置を推進しています。全拠点の人材を対象とした選抜従業員向け研修に加え、国際間異動ルールの制定などのクロスボーダー配置推進基盤を整備し、ヤマハ（株）の本社がある静岡県浜松市からは「浜松市外国人材活躍宣言事業所」として認定されています。その他にも、アジア最大級のLGBTQ+関連イベント「東京プライド」への3年連続の出展やプライド月間を祝う取り組みなどを通じて、社会的マイノリティへのサポートに関する発信にも力を入れています。これらの取り組みが評価され、性的マイノリティに関する取り組みの評価指標「PRIDE指標」で6年連続で最高位「ゴールド」を受賞しています。

東京プライド2025へのブース出展の様子
ヤマハのブースに立つ従業員ボランティアとLGBTQ+向け取り組みの紹介パネル

work with Pride Gold 2024

「PRIDE指標」の「ゴールド」マーク

数字で見るヤマハ

ヤマハの特徴をデータでご紹介します

創業

1887年

売上収益

4,621億円

事業利益367億円

（2025年3月期）

売上構成比

国内23.1%

海外76.9%

（2025年3月期）

売上収益研究開発費比率

5.8%

（2025年3月期）

グローバル楽器市場シェア No.1*

ピアノ	電子ピアノ	ポータブルキーボード
39%	48%	48%

管楽器	ギター	楽器 計
32%	12%	26%

＊2025年3月期金額ベース、ヤマハ調べ

グローバルに広がるネットワーク

連結従業員数18,949人

子会社数61社

（2025年3月末現在）

GHG（温室効果ガス）排出量削減率

Scope1+2 マーケット基準 34.8%

Scope3 49.7%

（2018年3月期比、2025年6月時点の集計値）

持続可能性に配慮した木材使用率

69.5%

（2025年3月期）

タンザニアでのアフリカン・ブラックウッド植林*

累計約2.7万本/13.5ha

＊楽器素材となる希少樹種の育成・保全　（2017年3月期～2025年3月期）

YAMAHA MUSIC SCHOOL*の卒業生

550万人以上

＊ヤマハ音楽教室

新興国における公教育での音楽教育施策の展開数

累計425万人

（2025年3月期）

平均勤続年数*

18.5年

男性19.1年/女性16.5年

＊ヤマハ（株）　（2025年3月末現在）

一人当たりの平均研修時間*

年間22時間

＊ヤマハ（株）　（2025年3月末現在）

従業員女性比率

グローバル* 42.3%

ヤマハ（株） 24.8%

＊法令上の制約などにより一部グループ企業集計対象外　（2025年3月末現在）

従業員キャリア採用者比率*

27.0%

＊ヤマハ（株）　（2025年3月末現在）

育児休職取得率*

女性100%

男性61.4%

＊ヤマハ（株）　（2025年3月末現在）

有給休暇取得日数*

年間16日/人

＊ヤマハ（株）　（2025年3月末現在）

主要ネットワーク

海外（2025年9月30日現在）

会社名	所在地
1 Yamaha Corporation of America	アメリカ・カリフォルニア
2 Yamaha Guitar Group, Inc.	アメリカ・カリフォルニア
3 Córdoba Music Group, LLC	アメリカ・カリフォルニア
4 Yamaha Music Innovations, LLC	アメリカ・カリフォルニア
5 Yamaha Canada Music Ltd.	カナダ・トロント
6 Yamaha de México, S.A. de C.V.	メキシコ・メキシコシティ
7 Yamaha Music Latin America, S.A.	パナマ
8 アルゼンチン支店	アルゼンチン・ブエノスアイレス
9 Yamaha Musical do Brasil Ltda.	ブラジル・サンパウロ
10 Yamaha Music Europe GmbH	ドイツ・レリンゲン
11 フランス支店	フランス・クロワシーボーブール
12 イタリア支店	イタリア・ミラノ
13 イベリカ支店	スペイン・マドリード
14 UK支店	イギリス・ミルトンキーンズ
15 スカンジナビア支店	スウェーデン・ヨーテボリ
16 スイス支店	スイス・チューリッヒ
17 オーストリア支店	オーストリア・ウィーン
18 ベネルクス支店	オランダ・ニーウェガイン
19 ポーランド支店	ポーランド・ワルシャワ
20 Steinberg Media Technologies GmbH	ドイツ・ハンブルク
21 Nexo S.A.	フランス・プライー
22 L. Bösendorfer Klavierfabrik GmbH	オーストリア・ウィーナー・ノイシュタット
23 台湾山葉音楽股份有限公司	台湾・新北
24 雅馬哈楽器音響(中国)投資有限公司	中国・上海
25 雅馬哈楽器技術培訓(上海)有限公司	中国・上海

会社名	所在地
26 雅馬哈貿易(上海)有限公司	中国・上海
27 雅馬哈電子(蘇州)有限公司	中国・蘇州
28 蕭山雅馬哈楽器有限公司	中国・杭州
29 杭州雅馬哈楽器有限公司	中国・杭州
30 天津雅馬哈電子楽器有限公司	中国・天津
31 深圳雅馬哈楽器音響貿易有限公司 *1	中国・深圳
32 Yamaha Music Korea Ltd.	韓国・ソウル
33 Yamaha Music (Asia) Pte. Ltd.	シンガポール
34 Yamaha Music (Malaysia) Sdn. Bhd.	マレーシア・ペタリンジャヤ
35 Yamaha Electronics Manufacturing (M) Sdn. Bhd.	マレーシア・イポー
36 PT. Yamaha Indonesia *2	インドネシア・東ジャカルタ
37 PT. Yamaha Music Manufacturing Indonesia	インドネシア・東ジャカルタ
38 PT. Yamaha Musik Indonesia (Distributor)	インドネシア・中央ジャカルタ
39 PT. Yamaha Music Manufacturing Asia	インドネシア・ブカシ
40 PT. Yamaha Musical Products Indonesia	インドネシア・パスルアン
41 PT. Yamaha Electronics Manufacturing Indonesia	インドネシア・パスルアン
42 Siam Music Yamaha Co., Ltd. *1	タイ・バンコク
43 Yamaha Music Vietnam Company Ltd.	ベトナム・ホーチミン
44 Yamaha Music Philippines Inc.	フィリピン・マカティ
45 Yamaha Music India Pvt. Ltd.	インド・グルグラム *3
46 Yamaha Music Gulf FZE	UAE・ドバイ
47 Yamaha Music (Russia) LLC.	ロシア・モスクワ
48 Yamaha Music Australia Pty. Ltd.	オーストラリア・メルボルン

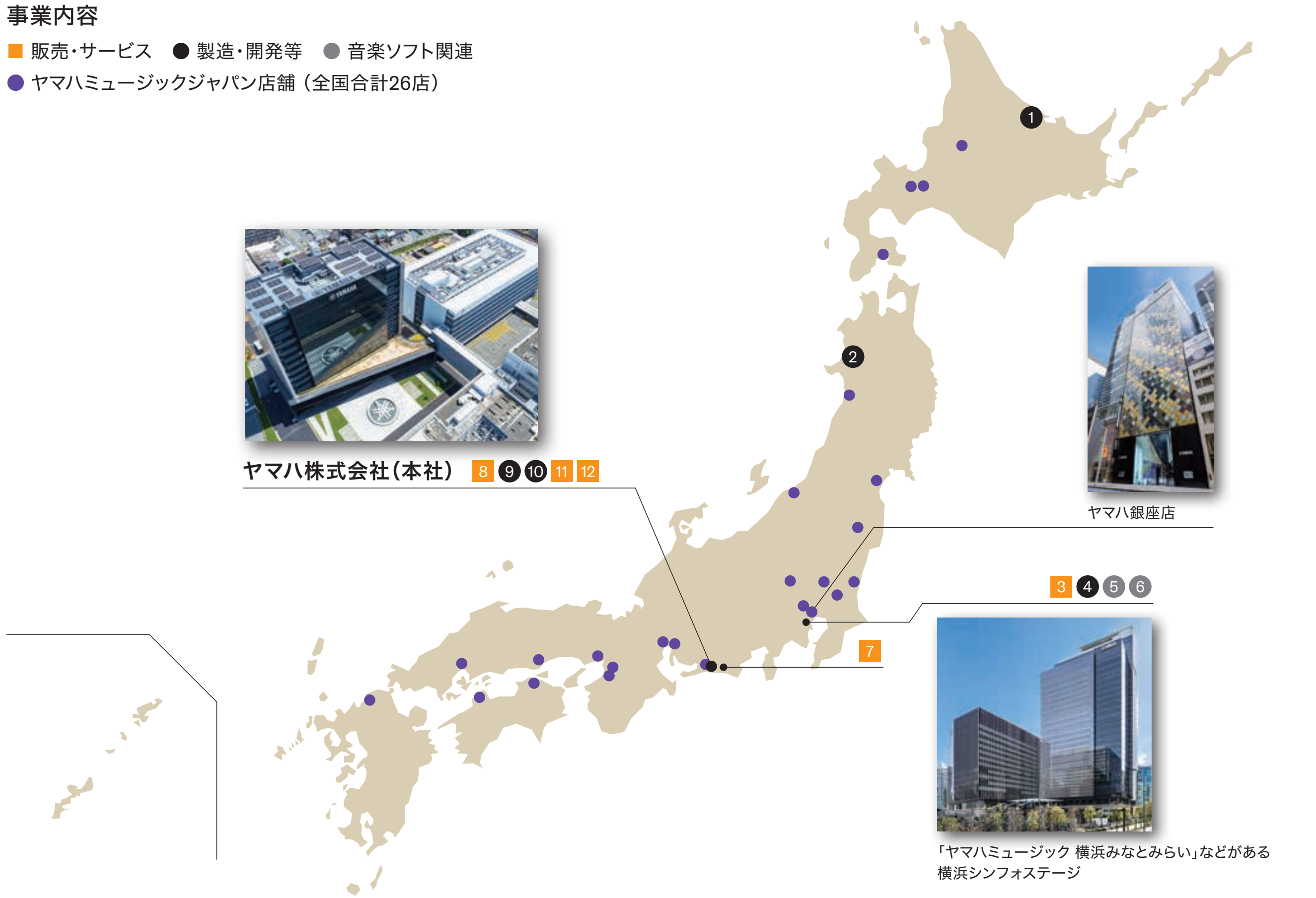
*1 非連結子会社、関連会社　*2 2025年12月生産終了予定　*3 製造拠点はインド・チェンナイ 45

国内（2025年9月30日現在）

事業内容

■ 販売・サービス　● 製造・開発等　● 音楽ソフト関連

● ヤマハミュージックジャパン店舗（全国合計26店）



会社名	所在地
1 株式会社ヤマハミュージッククラフト北海道	北海道紋別郡
2 株式会社ヤマハミュージッククラフト秋田	秋田県北秋田市
3 株式会社ヤマハミュージックジャパン	神奈川県横浜市
4 ヤマハサウンドシステム株式会社	神奈川県横浜市
5 株式会社ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス	神奈川県横浜市
6 株式会社ヤマハミュージックコミュニケーションズ	神奈川県横浜市
7 株式会社ヤマハリゾート	静岡県袋井市
8 ヤマハピアノサービス株式会社	静岡県浜松市
9 ヤマハハイテックデザイン株式会社	静岡県浜松市
10 ヤマハファインテック株式会社	静岡県浜松市
11 株式会社ヤマハコーポレートサービス	静岡県浜松市
12 株式会社ヤマハアイワークス *1	静岡県浜松市

*1 非連結子会社、関連会社

ヤマハ株式会社事業所・工場

本社事業所		静岡県浜松市
首都圏事業所	横浜オフィス	神奈川県横浜市
	渋谷オフィス	東京都渋谷区
大阪事業所		大阪府大阪市
豊岡工場		静岡県磐田市
掛川工場		静岡県掛川市
天竜工場		静岡県浜松市

企業ミュージアム・ピアノ工場見学のご案内

イノベーションロード

ヤマハ本社事業所 21号館内

https://www.yamaha.com/ja/about/experience/innovation-road/

ピアノ工場見学

ヤマハ掛川工場 ハーモニープラザ

https://www.yamaha.com/ja/about/experience/piano-factory-tour/

※見学は予約制です。予約方法、見学実施日等、詳しくは上記QRコード、URLからご確認ください。

YAMAHA　YAMAHA

「感動」を世界の人々にお届けする、ヤマハ株式会社とヤマハ発動機株式会社

ヤマハ株式会社（当時の日本楽器製造株式会社）の金属加工技術、メカトロニクス技術から生まれたオートバイ部門が分離独立し、1955年、ヤマハ発動機株式会社が誕生しました。両社の経営は互いに独立していますが、ともに掲げる「お客様とともに感動を創り、こころ豊かな生活を実現し、社会と文化に貢献する」という「ヤマハ」ブランドの使命を実現するため、ヤマハは音・音楽を、ヤマハ発動機は多様なモビリティの提供を中心に、それぞれの事業活動を通じてさらなる成長を目指しています。

ヤマハの沿革

1887　山葉寅楠が浜松の小学校でオルガンを修理、
同年にオルガン製作に成功

1897　日本楽器製造(株)を設立

1900　ピアノの製造を開始

1949　東京証券取引所に株式を上場

1954　「YAMAHA MUSIC SCHOOL
(ヤマハ音楽教室)」の前身となる
教室を開講
オーディオの製造を開始
(HiFiプレーヤー)

1955　オートバイ部門をヤマハ発動機(株)として分離

1958　メキシコに販売子会社
ヤマハ・デ・メヒコを設立

1959　スポーツ用品の製造を開始
電子オルガン(エレクトーン®)の製造を開始

1960　米国に販売子会社
ヤマハ・インターナショナル・コーポレーション
(現ヤマハ・コーポレーション・オブ・アメリカ)を設立

1962　リゾート事業を開始

1964　リビング用品の製造を開始(FRP製バスタブ)
※2010年リビング事業子会社の株式を譲渡

1966　管楽器の製造を開始

財団法人ヤマハ音楽振興会発足(2011年、一般財団法人に移行)
西ドイツ(当時)に販売子会社 ヤマハ・ヨーロッパを設立

1968　日本初の株式時価発行を実施

1972　半導体の生産を開始　※2015年ファブレス化

1980　ヤマハピアノテクニカル
アカデミーを設立

1987　創業100周年を機に、
社名を日本楽器製造(株)からヤマハ(株)に変更
ヤマハ英語教室を開始

1989　中国に電子楽器製造・販売子会社
天津ヤマハ電子楽器を設立

2002　中国に投資管理会社 ヤマハ楽器音響(中国)を設立
ドイツに欧州統括会社
ヤマハ・ミュージック・ホールディングス・ヨーロッパ
(現ヤマハ・ミュージック・ヨーロッパ)を設立

2005　ドイツの音楽制作用コンピューターソフトウェア
開発・販売会社 Steinberg(スタインバーグ)を買収

2007　音楽ソフト事業統括会社 (株)ヤマハミュージック
エンタテインメントホールディングスを設立

2008　オーストリアのピアノメーカー Bösendorfer(ベーゼンドルファー)を買収
フランスの業務用スピーカー製造・販売会社 Nexo(ネキソ)を買収

2010　ピアノ国内生産拠点を
掛川工場へ統合

2012　管楽器国内生産拠点を豊岡工場へ統合

2013　国内の楽器・音響機器卸販売および教室事業を行う
(株)ヤマハミュージックジャパンを発足

2014　米国の楽器・音響機器メーカー Line 6(ラインシックス)
(現ヤマハ・ギター・グループ*)を買収
*2018年 Ampeg(アンペグ)ブランド、2023年 Córdoba(コルドバ)を買収

2018　研究開発拠点
イノベーションセンターを
開設

2019　インドの販売子会社 ヤマハ・ミュージック・インディアに
工場を新設

2021　ヤマハ銀座店を「ブランドショップ」としてリニューアルオープン

2024　新設した横浜シンフォステージ内に体験型ブランドショップ
「ヤマハミュージック 横浜みなとみらい」を開設
ヤマハ(株)本社構内にオフィス棟を開設
Shibuya Sakura Stageにブランド発信拠点
「Yamaha Sound Crossing Shibuya」を開設

2025　米国シリコンバレーに事業開発・CVCファンド運営管理会社
ヤマハ・ミュージック・イノベーションズ設立

会社情報

会社概要 (2025年3月末現在)

会社名	ヤマハ株式会社
本社	静岡県浜松市中央区中沢町10番1号
創業	1887年(明治20年)
設立	1897年(明治30年)10月12日
代表執行役社長	山浦　敦
資本金	285億34百万円
連結売上高	4,620億80百万円
連結従業員数	18,949人 (ほか平均臨時雇用者数5,704人)
地域別従業員数	日本 5,574人、北米 772人、欧州 1,119人、中国 4,078人、その他 7,406人
子会社数	61社 (うち連結対象55社)
関連会社数	4社
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場 (証券コード7951)
コーポレートサイト	https://www.yamaha.com/ja/

役員 (2025年6月20日現在)

取締役

取締役会長	中田　卓也	指名委員
取締役	山浦　敦	
社外取締役	Paul Candland(ポール・キャンドランド)	指名委員、報酬委員(委員長)
社外取締役	篠原　弘道	指名委員(委員長)、報酬委員
社外取締役	吉澤　尚子	監査委員
社外取締役	江幡　奈歩	監査委員
社外取締役	伊藤　秀二	指名委員、報酬委員
社外取締役	野上　宰門	監査委員(委員長)

執行役

代表執行役社長	山浦　敦	
常務執行役	山口　静一	楽器事業本部長
常務執行役	押木　正人	楽器事業本部副本部長兼 音響事業本部副本部長
執行役	後藤　敏昭	楽器事業本部副本部長兼 音響事業本部副本部長
執行役	徳弘　太郎	業務本部長
執行役	鳥羽　伸和	音響事業本部長
執行役	西村　淳	経営本部長

ヤマハフィロソフィー

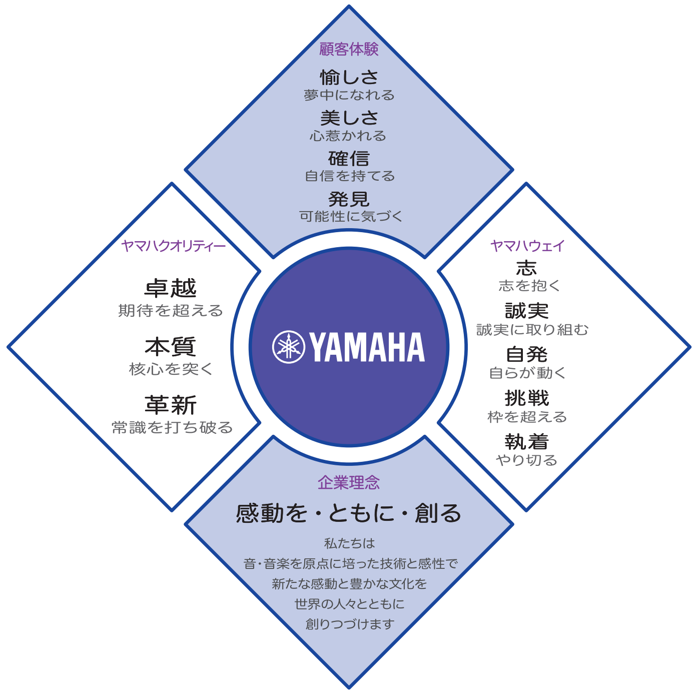
「ヤマハフィロソフィー」は、「企業理念」「顧客体験」、
そして「ヤマハクオリティー(品質指針)」「ヤマハウェイ(行動指針)」からなるヤマハグループの理念体系です。
私たちは、常にヤマハフィロソフィーを心のよりどころにしながら、
お客様の視点に立ち、期待を超える製品とサービスを生み出すことで、
未来に向かって新たな感動と豊かな文化を創りつづけます。

◆ 企業理念
ヤマハグループは何のために存在するのか、何に向かって仕事や経営を行うのかを示しています。

◆ 顧客体験
企業理念をお客様の視点から具体的に示したもので、お客様がヤマハグループの製品・サービスを手にし、使用された時に、心と五感で感じていただくことができる体験を明示したものです。

◆ ヤマハクオリティー (品質指針)
企業理念を具現化するために、製品・サービスに込めたこだわりや、モノづくりに対する基本的な考え方を指針として示しています。

◆ ヤマハウェイ (行動指針)
企業理念を具現化するために、ヤマハグループの全従業員が日々、何を意識し、どのように行動すべきかを指針として示しています。



YAMAHA

Make Waves

ヤマハ株式会社　コーポレート・コミュニケーション部　https://www.yamaha.com/ja/　2025年9月発行

FSC
www.fsc.org
ミックス
紙 | 責任ある森林管理を支えています
FSC® C182036

TOYO INK
nonVOC™

-CM251